

おだがいさま

odagaisama

第 68 号
平成 29 年
2 月 1 日 発行

正月飾り一つひとつに
意味があるって知ってた？



完成した作品はどれも見事!!

12月17日(土)に大山児童館で小学生を対象とした「ステキ！お正月用フラワーアレンジメント」が行われました。

この行事は、「正月飾り」を作りながら、子ども達の伝統文化への興味・関心を引き出すことを目的に、講師にフラワー装飾1級技能士の諏訪郁さんをお迎えして催されました。

参加した10人の子ども達は、正月飾りに使われる“扇”や“水引”などの作り方や飾り付けを学びながら「末広がりのは家は家の繁栄、水引は人と人との縁結び、飾られるもの一つひとつに意味がある」ことや、正月飾りは「歳神様を迎える準備が出来た目印」などの文化的な意味にも触れ、目を丸くして飾りの意味に興味を示していました。

苦戦しながらも、およそ1時間で完成させた正月飾りの出来栄はどれも見事で、「松には神様が宿るって知ってた?」「早くお家に飾りたい」と、迎えに来た家族に満足そうに話していました。



子ども達に分かりやすく教えてくれた
講師の諏訪郁さん
「飾りの意味がわかるって楽しいでしょ?」



会長 難波 玉記

新年あけましておめでとうござい
ます。

今年も市社協の合言葉であります
「もっけだのう」「おだがいさま」を声
高らかにし、地域福祉事業をはじめ、
高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉
事業等、鶴岡市社会福祉協議会役員
一同、行政と一体となり、市民の幸せ
のため、平成二十九年も更に頑張るこ
とをお誓い申し上げます。

特に日本経済は停滞の中にあり生活
困窮者が増加の傾向で、それに連動し、
子どもの六人に一人が何らかの生活の
困窮にあるといわれております。相談
の窓口を開設しておりますが、まだ多
くの方々がひとりで悩んだり苦しんだ
りしていると思うと心が痛みます。

市社協としても、こうした諸問題に
向き合い、解決に向け力を注いで参り
たいと存じます。

本年も市民福祉の向上のため皆様
のご理解とご協力賜りますようお願い申
し上げます。

身近な地域で障がいを学ぶ

障がいを理解する研修会「ぱりあふりい塾」が開催されました!



久しぶりの再会に嬉し泣きする
参加者も…



12月6日には由良地区でも開催しました!

11月15日、第五学区コミュニティ防災センターを会場に障がいを理解する研修会「ぱりあふりい塾」が行われました。この研修会は、鶴岡市障害者相談支援センターと開催を希望する地域の団体が一緒に企画を行っているもので、障がいのある人への理解や認識を深め、地域の中であたたかく見守り、支援する応援団を増やしていくことを目的としています。

この日は、第五学区の福祉協力員や民生児童委員、町内会長等、55人が参加し身体・知的・精神・発達障がいそれぞれの状態や特徴、そして、昨年まで学区内で暮らしていた知的障がいのある方の地域生活の様子や近隣住民の見守りから様々なサービスに繋がった経過などを学びました。

主催団体の一つである第五学区福祉協力員連絡会の澤田光枝代表は「連絡会では、これまで様々な研修を企画してきましたが、障がいをテーマに開催したのは今回が初めて。とくに反響が大きかったのは、当事者の方をお招きしてお話を伺えたことです。参加者の中には顔見知りの方もいて、久しぶりの再会に大変感激されていまして、私たち住民ができることをより具体的に考える機会にもなりました。」と研修会の成果を熱く語っていただきました。

鶴岡市障害者相談支援センターより

～「隣組同士の繋がりを大事にしたい」との思いを受けて～

「障がいがある人、又はない人でもそれぞれ違いや困難はあると思うので色々な人が認め合える世の中になればいい」との感想を頂戴したのは、今年度の障がいを理解する研修会でした。

鶴岡市障害者相談支援センターでは、毎年障がいを理解する研修会を大きな会場で著名人を招き開催しています。今年は、初めて学区地区の関係者のご協力のもとコミュニティセンターを会場に、その地域にお住いの障がいのある方やそのご家族を講師にお迎えし研修会を開催しました。

「テレビなどで障がいについての放送を見るが、自分の地域に目を向けていなかったと反省した」「地域の中に住んでいる障がいのある人の生活をもっと理解し、隣組同士の繋がりを大事にしたい」などの感想もあり、障がいのある方の生活を身近な地域住民として理解するきっかけになったと思います。今後も皆様のご協力をいただき、身近な地域での研修会を開催したいと思います。

第一学区

“オール一学区” で目指す安心・安全な 地域づくり

市内の地域福祉活動を紹介するシリーズ。

第一学区には24の町内会があり、人口は10,539人、高齢化率は29.9%、少子高齢化は年々進行しており、町内会によっては高齢化率40%を超えているところもあります。(平成28年3月31日現在)

こうした状況を危惧し、第一学区社会福祉協議会では、学区内のコミュニティ振興会や町内会協議会等10団体と協力し、地域の結びつきと防災力を高めるための「誰も孤立させない絆づくりプロジェクト」を平成25年度から始めました。

平成28年4月には、一層の活動充実を目指して、学区社協をコミュニティ振興会に組織統合し、新体制により取り組みを継続展開しています。

「誰も孤立させない絆づくり」 の土台となる活動

活動を始める上で、平成二十六年年度に「第一学区安心安全の絆づくり推進会議」を設置。まず、大事にしたのが課題意識の共有でした。

◆自分の地域を知る3つの調査

平成二十六年年度に、東北公益文科大 学協力のもと、「地域の実態に関するデータ分析」「まちかど調査」「高齢者意向調査」を実施し、多くの住民の方々と第一学区の課題や将来像について一緒に話し合いました。

◆町内会地域座談会

町内会が抱えている問題を把握し、解決策を協議実行することを目的に、各町内会の役員、民生児童委員、福祉協力員等を対象とした地域座談会を実施。防災対策プロジェクトチーム・事務局コーディネーターが座談会へ出向き、次のような活動につなげています。

◆防災支援情報の収集と共有

災害時に自力で避難することが難しい方（避難行動要支援者）を把握し、さらに、町内会役員（民生児童委員・

災害のときで地域から

犠牲者を出さない

福祉協力員・保健推進員含む）、自主防災団員、消防団OB協力者等と、要支援者ごとの避難支援態勢を構築しています。また、実際に関係者で町内を歩く「防災まちあるき」を実施し、地震発生時に建物やブロックが倒壊しそうな地域やいつとき避難所、一次・二次避難所への避難路、消防水利やAEDの所在等を確認しています。



地域座談会：地域の防災意識は高く活発に意見が交わされました。

◆地域支え合い支援マップづくり

防災支援情報を整理後、町内の白図に各情報の位置取り作業を行い「地域支え合い支援マップ」づくりに取り組めます。マップには、避難行動要支援者、支援協力者の状況、避難路等の情報を落とし込み、各町内会で保管します。

マップは、避難するための方法や支援などの話し合い、防災訓練の場でも活用が予定されています。



マップづくり：マップに表すことで住民相互の活動イメージが広がりました。

地域ぐるみの支え合い活動へ

マップは現在、全町内会での作成を目指し第一学区の約半数の町内会で作成されており、要支援者の定期的な声掛けや見守り活動にも活用されています。

「誰も孤立させない絆づくり」は、関係団体や協力者などでネットワークを構築し、地域全体で取り組むという連帯性と、日常のコミュニティ活動として展開するという意思疎通を図りながら、今後も、災害に強い地域づくりに向け推進されます。

災害時の協定を結びました ～鶴岡市社協と大崎市社協

鶴岡市社協と宮城県大崎市社協（遠藤敏榮会長）が11月15日に災害時における相互応援に関する協定を結びました。大崎市は宮城県の北西部に位置しており、2006年に7市町が合併し誕生して以来、大崎市社協と鶴岡市社協とは同規模の社協として、運営面での共通点が多いことなどから、情報交換や交流を深めてきていました。

この協定では、地震や暴風、豪雨などの災害発生時に災害ボランティアセンターの設置と運営に必要な職員の派遣や資機材の提供などで互いに支援することとしている他、被災地の社協と連絡が取れなくとも応援できることとしています。締結式で難波会長は「お互いの発展のために大変心強いことであり、ますます交流を深めていきたい」とあいさつしました。



鶴岡福祉バス抽選会 事前申請受付(平成29年4月～平成29年6月分)

鶴岡福祉バス抽選会（平成29年4月～平成29年6月予約分）のための事前申請を次の日程で受け付けます。（申請書は社会福祉協議会 総務課にあります）

- * **対象期間** 平成29年4月～6月 1団体1回の予約ができます。※申請書の備考欄に希望月を記入してください。
- * **利用対象** 旧鶴岡市域に住所を有する個人または団体
- * **申請期間** 平成29年2月1日(水)～2月15日(水)
- * **抽選日** 平成29年2月23日(木) * **申込み・問合せ** 鶴岡市社会福祉協議会総務課 TEL24-0053



ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。
(平成28年11月6日から～平成29年1月5日までのご寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センターへ

- ・鶴岡市立荘内看護専門学校 看学祭実行委員会 様 10,000円
- ・(株)荘内日報社 様 80,000円
- ・真如苑庄内支部 様 200,000円
- ・匿名 精米30kg、玄米40kg

◎藤島福祉センターへ

- ・曹洞宗山形県第三宗務所 様 50,000円
- ・藤島婦人会 様 5,000円

◎羽黒福祉センターへ

- ・田川建設労働組合羽黒支部 様 5,000円

◎朝日福祉センターへ

- ・田川建設労働組合朝日支部 様 20,000円

★地域福祉センターなえづへ

- ・(株)産直あぐり 様 ふじりんご3箱
- ・山形日産自動車販売株式会社 様 車イス1台

★老人デイサービスセンターふれあいへ

- ・さんもん会 様 車イス1台
- ・山形日産自動車販売株式会社 様 車イス1台

★高齢者福祉センターおおやまへ

- ・鶴岡市立大山小学校 様 15,000円

★老人デイサービスセンターおおやまへ

- ・鶴岡ナイスフェローライオンズクラブ 様 門松1対

★はちもりへ

- ・和可や 様 皿200枚

★櫛引すこやかセンターへ

- ・(株)産直あぐり 様 りんご5箱

★温海デイサービスセンター愛寿園へ

- ・斎藤 久雄 様 シルバーカー1台
- ・大井 繁 様 20,000円

★鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるまへ

- ・スマイルサンタクロース 様 クリスマスケーキ7ホール

- ・マックスバリュ鶴岡南店 様 クリスマスプレゼント(詰合せ)76セット
- ・(株)産直あぐり 様 ふじりんご3箱

★もみじが丘へ

- ・吉野屋 代表 佐藤 柏 様 50,000円
- ・佐々木 秀雄 様 作業手袋12双×70束
- ・(株)産直あぐり 様 りんご2箱
- ・マックスバリュあつみ店 様 クリスマスケーキ13ホール、みかん2箱、お菓子各種

★くしびき南部保育園へ

- ・出羽商工会櫛引支部 様 絵本20冊
- ・田川建設労働組合櫛引支部 様

★特別指定寄付

- きらり稲生、やまびこ、あけぼの、根っこ杉へ
- ・庄内ヤクルト販売(株) 様
- ・庄内ヤクルト販売店親交会 様 200,000円

おだがいさま

第68号
平成29年2月1日発行
発行部数 49,300部



編集・発行
社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会
鶴岡市泉町5番30号 (にこ♥ふる2階)
TEL 0235-24-0053 FAX 0235-23-9110
ホームページ <http://www.shk01.jp/>

鶴岡福祉センター TEL 24-0053
藤島福祉センター TEL 64-3100
羽黒福祉センター TEL 62-4534
櫛引福祉センター TEL 57-5300
朝日福祉センター TEL 53-2795
温海福祉センター TEL 43-2114

この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。